

グループ紹介

みんなようぶよう こうえいかい
民踊舞踊連盟 孝栄会

▼文化祭りの舞台に向けて、練習に気合が入ります



踊ることを楽しみ 舞台で発揮！

多久市民踊舞踊連盟に所属する孝栄会（米倉孝子会主）は、昭和62年4月発足。毎週金曜日午後1時30分から中央公民館で練習をしています。

取材当日は多久市文化祭りに向けての練習。米倉先生の指導で曲に合わせて振りを確認します。文化祭り、地区の敬老会や文化祭、カラオケ発表会が発表の場で、何年も長く踊っている曲は自己流になっていないか、いつも気をつけて踊っています。

50代から80代の会員は9人。20年以上続けている会員が多く、みなさん踊るだけでなく、話をしたり、お茶を飲んだりすることも楽しみで、ストレス解消になっています。

米倉先生は「踊りをしている間にストレスを忘れていきます。人数が多いと目が行き届かないので、このメンバーで楽しんでいます。文化祭りの舞台練習に頑張っています」と教えにも熱が入っていました。

問 多久市文化連盟 ☎74-3241

ふ・れ・あ・い・ひ・ろ

●連載7● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『多久の肥前狛犬展』②

製作時期が推測できる狛犬

開催中の『多久の肥前狛犬展』で展示している狛犬には、製作年代などを刻んだ銘があるものがひとつもなく、いつ造られたものかはっきりしないものがほとんどです。しかし、狛犬が奉納されている神社や石祠から年代が推測できるものもあります。

松ヶ浦・厳島神社の肥前狛犬は神殿内に置かれた弁才天の石祠に奉納されたこの石祠には永禄12年（1569）の紀年銘と、製作者である石工「平河治右衛門」の名が刻まれています。このことから、狛犬も石祠と近い時期に作られたと推測されます。

弁財天の石祠は県内でも最古級のもので市の重要文化財の指定を受けており、また平河治右衛門は牛津・砥川石工の名人といわれる平川と四衛門ら平川姓の石工たちの先祖とみられ、砥川石工の起源にも関わる貴重な資料です。



地域の歴史を見つめてきた狛犬たち。貴重な文化財として未来に守り伝えたいものです。

◀肥前狛犬（松ヶ浦 厳島神社）

多久市歴史民俗資料館開館30年記念特別企画展

多久の肥前狛犬展

会 場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室

会 期 / 10月1日(土)～11月27日(日)

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

川柳

《多久市川柳会 互選》

星ひとつ指で作った輪に入れる
木下 ユキ
バイキング負けてしまったダイエット
松ノ口 修
おむつ替えばあばがいと
孫指名
絵手紙で心開いた便り来る
猪ノ口 昭子
健康な一家に夜の笑い声
古賀ちひろ
西山 残月

俳句

《あざみ句会 互選》

稲架掛けて標識のなき鳥の道
大石ひろ女
一匹の蚊に落ち着かぬ法話かな
千々岩弘幸
新薬の匂ひのなかに村灯る
中嶋 清子
鮮やかに棚田彩る彼岸花
川内スミ子
長江の船より仰ぐ十三夜
中尾 和弘

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

杜に佇ち大樹の樟見上ぐれば
自然が営む果てしなき刻
川浪 信子
友の計報に駆せ得ぬほどに
老いたれば葬送のさま想ひ描くのみ
内田 龍子
新しき世紀を生きたる曾孫生れ
月の世界へ遊びに行ける
田淵ミチ子
健康と自負したる日々は既に過去
両足の痛み日々に増すのみ
迎 寿代
食事刻おんな四代居座れば
夫と息子は か細く見ゆる
福島那智子

市民文芸